

◆ 会場へのアクセス ◆

宮崎市民プラザ

〒880-0001 宮崎県宮崎市橋通西1丁目1番2号 TEL:0985-24-1008

橋通り1丁目バス停から徒歩 3分

宮崎駅・南宮崎駅からバスで10分、徒歩30分

宮崎空港からバスで25分、タクシーで20分



- 駐車場のご案内
- 《宮崎市役所第5駐車場（無料）》
 利用時間 7：30～19：30
 収容台数 80台

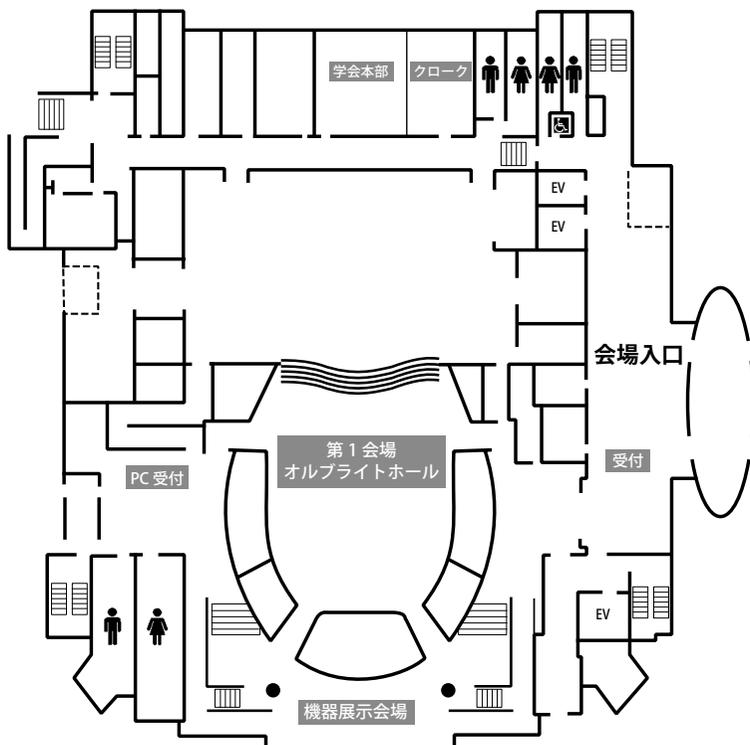
 - 《市民プラザ地下駐車場（有料）》
 利用時間 8：30～22：30
 収容台数 79台
 2時間以内無料
 以降は1時間100円
 （車高制限2.1mまで）

 - 《松橋駐車場（無料）》
 利用時間 8：30～22：30
 収容台数 39台

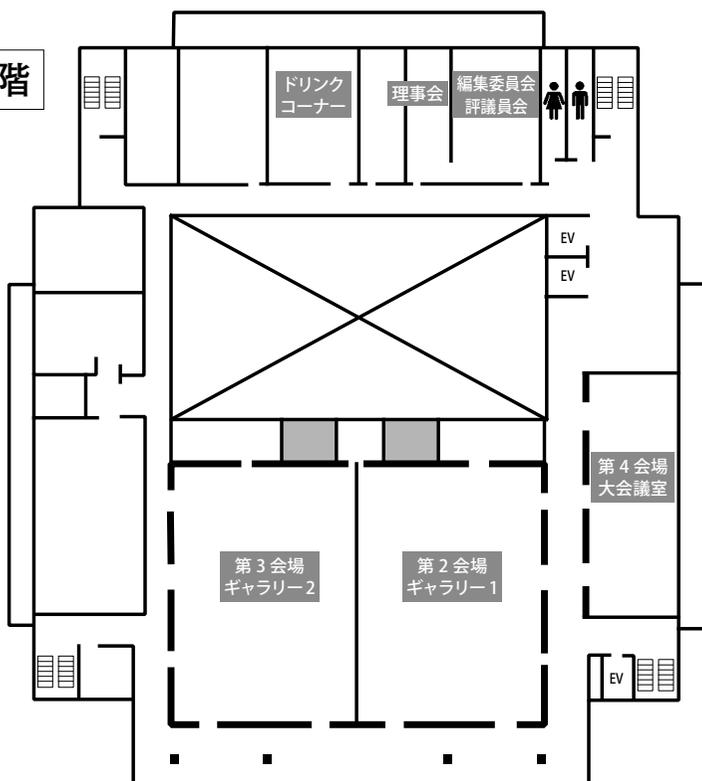


◆ 会場案内図 ◆

1 階



4 階



◆ 参加者へのお知らせ ◆

1. 受付：11月14日（土） 午前8時00分～
11月15日（日） 午前8時30分～
宮崎市民プラザ1階にて受付をいたします。
巻頭に綴込みの参加申込書に所属・氏名をご記入いただき、参加費8,000円を添えてお申し込みください。受付にてお渡ししました参加証はご記名の上、会場内では必ずご着用ください。
年会費、新入会、住所変更は学会事務局にて手続きしてください。
2. 呼び出し：緊急時のみサブスライドで呼出しします。受付にご相談ください。
3. クローク：学会両日とも、受付開始より学会終了まで市民プラザ1階に開設いたします。
4. 昼食：ランチョンセミナーまたは会場及び周辺のレストランをご利用ください
5. 喫煙：会場内はすべて禁煙です。喫煙は所定の場所でお願います。
6. ドリンクサービス：会期中4階に設置しておりますのでご利用ください。
7. 駐車場：宮崎市役所第4・5駐車場（無料）及び宮崎市民プラザ地下駐車場（有料）がございます。駐車台数に限りがありますので、ご了承ください。

◆ 口演演者へのお知らせ ◆

1. 発表（口演）時間
【主 題】 発表8分／総合討論30分
【一般演題】 <口演> 発表5分／質疑3分
発表4分／質疑3分（演題番号*印）
口演発表は1分前に黄ランプ、終了時に赤ランプでお知らせします。
学会の進行上、時間厳守をお願いします。
2. 発表用データの作成
 - ・学会場で使用するパソコンのOS及びアプリケーションは以下の通りです。
【Windows】 OS：Windows7 / PowerPoint 2007 / 2010 / 2013
※Macintoshで作成された場合は、会場にご自身のパソコンをお持ちください。
 - ・発表データはCD-R またはUSB メモリに保存し、ファイル名に演題番号と筆頭演者名を入れてください。また、リンクしているデータがあれば必ず同一フォルダに保管してください。
 - ・データ作成の際は、OSに標準で装備されているフォントを使用してください。
 - ・発表に使用するPCは全てXGA（1024×768）に統一しておりますので、ご使用のPCの解像度をXGAに合わせてから発表データの作成をしてください。※このサイズより大きい場合、または画面をぎりぎりまで使用し作成すると再現環境の違

いにより文字や画像のはみ出し等の原因になることがあります。

- ・メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス対策ソフトで事前にチェックをお願いいたします。
- ・動画を使用される場合は、PCをお持ちください。尚、音声は使用できませんのでご注意ください。

3. 発表データの提出

発表セッション開始1時間前（早朝の方のみ30分前）までにPC受付にお越しください。

（第2日目にご発表いただく先生も初日に受付が可能ですが、当日発表される演題の受付を優先させていただく場合がございますので予めご了承ください）

【メディアをお持ちになる方へ】

- ・お持ちになるメディアはCD-RまたはUSBメモリに限ります。
 - ※CD-Rにコピーする時には、ファイナライズ（セッションのクローズ・使用したCDのセッションを閉じる）作業を必ず行ってください。この作業が行われなかった場合、データを作成したPC以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能になります。
- ・事前に、データ作成に使用したパソコン以外で動作確認を行い、正常に動作することをご確認ください。
- ・不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをお持ちください。
- ・発表の15分前までに次演者席近くにて待機してください。
- ・コピーした発表データは、学会終了後、事務局側で責任をもって消去いたします。

【ノートパソコンをお持ちになる方へ】

- ・PC受付でPC持ち込み受け付けを行ってください。備え付けのモニターディスプレイを使用して動作確認を行ってください。



D-sub15ピン（ミニ）

- ・会場に用意したプロジェクター接続のコネクタ形状はD-sub15ピン（ミニ）です。

一部のノートパソコンでは専用の変換アダプターが必要な場合がありますので必ずお持ちください。

ノートパソコンから外部モニターに正しく出力されるか確認してください。個々のパソコンやOSにより設定方法が異なりますので事前に設定をお願いします。

- ・動画データをご使用の場合、本体の液晶画面に動画が表示されてもPCの外部出力に接続した画面には表示されない場合があります。実際にお持ちいただくPCの外部出力をモニターまたはプロジェクターに接続してご確認ください。
- ・スクリーンセーバーならびに省電力設定は事前に解除しておいてください。
- ・会場にて電源をご用意しておりますので、バッテリー切れに備えて電源アダプターを必ずお持ちください。

- ・不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをCD-RまたはUSBメモリでお持ちください。
- ・発表開始20分前までに会場内演台付近のPCオペレーター席までPC本体・電源アダプター（・変換アダプター）をご自身でお持ち下さい。
- ・発表は、演台上にセットされておりますモニター、キーボード、マウスを使用し、先生ご自身で操作をしてください。

4. 利益相反（COI）について

筆頭演者の方は、「日本整形外科学会における事業活動の利益相反（COI）に関する指針」に基づき、利益相反の申告をお願いいたします。

尚、利益相反の有無に関わらず、全ての筆頭演者にご開示いただく必要があります。口演発表スライドの2枚目に、該当するCOIの有無、および有の場合はその状態を開示してください。

◆ 発言者へのお知らせ ◆

- ・質問は簡潔をお願いします。スライドの使用はできません。
- ・発言者はマイクの前に並んでお待ちください。

◆ 座長へのお知らせ ◆

- ・セッション開始の15分前までに会場内の次座長席にご着席ください。
- ・セッションの時間を厳守してください。

◆ 教育研修単位をご希望の方へ ◆

1. 日本整形外科学会教育研修単位

- (1) 本学会の特別講演1・2、ランチョンセミナー1・2・3・4には日本整形外科学会教育研修単位が認められています。
詳細は、11～12頁・14頁の各種講演のご案内をご覧ください。
- (2) 受講数に制限はございませんが、専門医（資格継続用）、研修医（専門医申請用）ともに1日に取得できる単位は4単位、会期中最大6単位までです。

受講受付

宮崎市民プラザ1階受付の教育研修講演単位受付へお越しください。

申込方法

巻頭に綴込みの受講申込書に必要事項をご記入の上、受講料（1講演1,000円）を添えてお申し込みください。なお、平成27年1月より開始された単位のデジタル化に伴い、単位の取得にはIC会員カードが必要となりますので、必ずお持ちください。

※講演日当日のみの受付とさせていただきます。

※受講料の払い戻しはいたしませんのでご注意ください。

※教育研修講演受講のみで入場される場合も、学会参加費は必要です。

※学会参加者で単位を必要としない方の聴講は自由です。

なお、研修医の方もICカードでの単位取得になります。「研修手帳」の押印欄に、本人で「ホームページ参照」とご記入ください。研修手帳への受講証明印の押印は、単位取得のデジタル化により廃止いたしました。演題名を含む受講記録が、公益社団法人日本整形外科学会ホームページの会員専用画面の専門医制度取得単位照会に、学会終了2週間後から表示されます。未専門医の方は、専門医申請の際には、ご自身の単位取得履歴一覧をプリントアウトして他の必要書類と一緒にご提出ください。

講演会場での手続き

講演開始10分前から開始10分後までに、IC会員カードまたは仮IC会員カードを講演会場入り口のカード読み取り機にかざして出席登録を行ってください。10分を過ぎた場合、入場手続きが完了していない場合、途中退場された場合には単位取得はできませんのでご注意ください。

研修単位受講履歴について（整形外科専門医の先生方へ）

学術集会終了から2週間程度で単位が反映されます。日整会会員専用ページの「専門医制度取得単位照会の単位振替システム」にて単位取得状況をお確かめください。取得した単位で、複数の必須分野等が認定されている場合、自動的に小さな方の分類番号として登録されます。

例) N1、N3、Rが認定されている場合、自動的にN1になります。

* N3やRの単位として登録したい場合は、後日、公益社団法人日本整形外科学会のホームページより「単位振替システム」を使って変更してください。

なお、受講された単位が「取得可能単位数」を超過した場合や同一時間帯での複数受講記録がある場合は過誤データとなりますので、「単位振替システム」にて超過分などの削除を行ってください。3カ月以内にご自身で訂正されなかった場合には一定のルールに従って、機械的に削除されますのでご注意ください。

2. 日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修単位

本会の特別講演1には日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修会として単位が認められています。

申込方法

巻頭に綴込みの受講申込書に必要事項をご記入の上、受講料（1講演1,000円）を添えてお申し込みいただき、学会の「生涯教育研修会参加証」をお受け取りください。

参加証

参加証は、年度末の自己申請の際に、日本リハビリテーション医学会事務局へ提出し

てください。

3. 日本リウマチ学会教育研修単位

本会の特別講演2、ランチョンセミナー1および3には日本リウマチ学会教育研修会として単位が認められています。

申込方法

巻頭に綴込みの受講申込書に必要事項をご記入の上、受講料（1講演1,000円）を添えてお申し込みいただき、学会の「教育研修会受講証明書」をお受け取りください。

受講証明書

受講証明書は、専門医手帳に貼付してください。未認定者は、保管し専門医申請と共に日本リウマチ学会に提出してください。

4. 日本リウマチ財団教育研修単位

本会の特別講演2、ランチョンセミナー1および3には日本リウマチ財団教育研修会として単位が認められています。

申込方法

巻頭に綴込みの受講申込書に必要事項をご記入の上、受講料（1講演1,000円）を添えてお申し込みいただき、財団の「教育研修単位取得証明書」をお受け取りください。

単位取得証明書

単位取得証明書の氏名および勤務先名は受講者各自で記入し、新規登録・更新時に日本リウマチ財団に提出してください。

5. 日本医師会生涯教育講座受講単位

本会の特別講演1・2、ランチョンセミナー1・2・3・4には日本医師会生涯教育講座として単位が認められています。

申込方法

申し込みは不要です。「日本医師会生涯教育講座参加証」をお受け取りください。

参加証

参加証は、所属の郡市区医師会の規定に従い保管・申請してください。

◆ 機器展示・書籍販売 ◆

日 時：平成27年11月14日（土） 8：30～18：00
平成27年11月15日（日） 9：00～15：00
場 所：宮崎市民プラザ 1階 ロビー [機器展示]
宮崎市民プラザ 4階 ロビー [書籍販売]

◆ 各種会合のご案内 ◆

平成27年11月14日（土） 学会第1日目

【理事会】

時 間：17：50～18：10

会 場：宮崎市民プラザ 4階 小会議室1

【編集委員会】

時 間：18：10～18：50

会 場：宮崎市民プラザ 4階 中会議室

平成27年11月15日（日） 学会第2日目

【評議員会】

時 間：8：10～8：40

会 場：宮崎市民プラザ 4階 中会議室

特別講演

11月14日（土） 15：30～16：30（第1会場）

1. 「これからのリハビリテーションと整形外科医への期待」

昭和大学 医学部 リハビリテーション医学講座 教授 水間正澄先生

座長 帖佐悦男

（日整会教育研修単位N-13もしくはRe：1単位どちらかを選択）

（日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育研修単位：10単位）

（日本医師会生涯教育講座受講単位1,6：1単位）

11月15日（日） 10：00～11：00（第1会場）

2. 「患者の一言から始まった脊椎研究」

慶應義塾大学 医学部 整形外科学教室 教授 松本守雄先生

座長 田島直也

（日整会教育研修単位N-7もしくはSS：1単位どちらかを選択）

（日本リウマチ学会教育研修単位：1単位）

（日本リウマチ財団教育研修単位：1単位）

（日本医師会生涯教育講座受講単位5,60：1単位）

ランチョンセミナー

11月14日（土） 12：00～13：00（第2会場）

LS1 「多施設研究の臨床データから考える関節リウマチ薬物治療におけるMTXとアダリムマブの効果的な使用法」

豊橋市民病院 リウマチ科 部長 平野裕司先生

座長 尾崎誠

（日整会教育研修単位N-6,10もしくはR：1単位どちらかを選択）

（日本リウマチ学会教育研修単位：1単位）

（日本リウマチ財団教育研修単位：1単位）

（日本医師会生涯教育講座受講単位8,61：1単位）

11月14日（土） 12：00～13：00（第3会場）

LS2 「高齢者骨粗鬆症の特徴と週1回テリパラチド治療～骨折治癒に及ぼす影響について～」

北里大学メディカルセンター 整形外科 部長 成瀬康治先生

座長 水田博志

（日整会教育研修単位N-2,4もしくはR：1単位どちらかを選択）

（日本医師会生涯教育講座受講単位57,77：1単位）

11月15日（日） 12：20～13：20（第2会場）

LS3 「新しいガイドラインにしたがった骨粗鬆症治療～薬剤選択を中心に～」

鳥取大学 医学部 保健学科 教授 萩野浩先生

座長 小宮節郎

（日整会教育研修単位N-4,7もしくはR：1単位どちらかを選択）

（日本リウマチ学会教育研修単位：1単位）

（日本リウマチ財団教育研修単位：1単位）

（日本医師会生涯教育講座受講単位3,77：1単位）

11月15日（日） 12：20～13：20 （第3会場）

LS4 「慢性疼痛患者の生活と生きがいを取り戻すーリハと認知行動療法を駆使してー」

新潟大学医歯学総合病院 総合リハビリテーションセンター 病院教授 木村 慎二 先生

座長 内藤 正俊

（日整会教育研修単位N-12, 13もしくはRe：1単位どちらかを選択）

（日本医師会生涯教育講座受講単位60, 73：1単位）

主 題

11月14日（土） 13：10～14：20 （第1会場）

主題1 「関節温存術後の関節症に対する治療戦略」

座長 加来 信広

北 島 将

1. Chiari外反術後の股関節症に対するTHA施行例の検討

久留米大学医療センター 整形外科・関節外科センター 瓜生 拓也 先生

2. 股関節骨切り術後のTHAの治療成績

長崎大学病院整形外科 穂積 晃 先生

3. 関節温存術後の関節症に対する人工股関節置換術

佐賀大学医学部整形外科 北島 将 先生

4. 変形性股関節症に対する関節温存手術の術後の関節症に対するジグリングの効用

柳川リハビリテーション病院 リハビリテーション科 広松 聖夫 先生

5. 寛骨臼骨切り術後の関節症進行に対する治療戦略～骨切り術から人工関節に至るまでの治療の軌跡～

宮崎大学 医学部 整形外科 中村 嘉宏 先生

11月14日（土） 8：45～10：05 （第1会場）

主題2 「最小侵襲脊椎手術1」

座長 小西 宏昭

播広谷 勝三

1. 頸部脊髄症に対する内視鏡下椎弓切除術の治療成績（棘突起縦割式椎弓形成術との比較）

長崎大学 整形外科 田上 敦士 先生

2. 第2頸椎神経根症に対する低侵襲手術（片側後弓切除）

佐田厚生会佐田病院 藤原 将巳 先生

3. 最小侵襲腰椎側方椎体間固定術による脊柱管・椎間孔拡大に関する画像的検討

下関市立市民病院 矢野 良平 先生

4. 内視鏡視下胸腰椎前方固定術の実際

今給黎総合病院 宮口 文宏 先生

5. 腰部脊柱管狭窄症に対する脊椎内視鏡（MED）手術の術後2年成績

山口労災病院 整形外科 片岡 秀雄 先生

6. 変性脊椎疾患に対する小侵襲手術：MEDとPEDの特徴を生かす使い分けに関して

地域医療機構（JCHO）九州病院 整形外科 土屋 邦喜 先生

11月14日（土） 10：15～11：45 （第1会場）

主題2 「最小侵襲脊椎手術2」

座長 有 蘭 剛

山 元 拓 哉

1. 腰部脊柱管狭窄症の最小侵襲除圧 内視鏡下椎弓切除術 (MEL) から経皮的内視鏡下椎弓切除術 (PEL) への発展

北九州市立医療センター 整形外科 吉 兼 浩 一 先生

2. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する Balloon Kyphoplasty : 最小侵襲で最大効果を得るための留意点

地方独立行政法人 下関市立市民病院 整形外科 山 下 彰 久 先生

3. 当院における Cortical bone trajectory を用いた腰椎椎体間固定術の治療経験

那覇市立病院 整形外科 比 嘉 勝 一 郎 先生

4. びまん性脊椎骨増殖症を伴う胸腰椎骨折に対して経皮的椎弓根スクリューを使用した後方固定手術の検討

宮崎大学医学部整形外科 猪 俣 尚 規 先生

5. 感染性脊椎炎に対する MISt を活かした治療戦略

下関市立市民病院 千 住 隆 博 先生

6. 化膿性脊椎炎に対する罹患椎 PPS を用いた後方固定術

聖マリア病院 整形外科 神 保 幸 太 郎 先生

7. 中長期成績からみた MIS-PLIF の意義の検討

公立学校共済組合 九州中央病院 整形外科 有 菌 剛 先生

11月15日 (日) 9:00 ~ 10:30 (第2会場)

主題3 「野球肘の現状と課題」

座長 鶴 田 敏 幸
石 田 康 行

1. 山口県における野球肘検診の確立を目指して

山口大学 医学部附属病院 整形外科 小 笠 博 義 先生

2. 我々の取り組んでいる野球肘検診の現状と課題

医療法人友和会 鶴田整形外科 荻 本 晋 作 先生

3. 宮崎県少年野球検診 ～検診の質の向上を目指して～

高千穂町国民健康保険病院 整形外科 長 澤 誠 先生

4. 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する関節鏡視下 HA/PLLA ピンを用いた骨接合手術の治療成績

産業医科大学若松病院 整形外科 宇 都 宮 啓 先生

5. 上腕骨小頭の離断性骨軟骨炎 (OCD) に対する鏡視下骨軟骨柱移植術 (OAT) の治療経験

産業医科大学若松病院 整形外科 熊 谷 達 仁 先生

6. 上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の病巣位置による治療成績の検討

鳥取大学 医学部 整形外科 林 育 太 先生

7. 野球による肘頭疲労骨折および肘内側側副靭帯損傷合併症例に対する手術成績

久留米大学医療センター 整形外科・関節外科センター 光 井 康 博 先生

11月15日 (日) 11:05 ~ 12:10 (第1会場)

主題4 「円板状半月 (板) 損傷に対する治療戦略」

座長 王 寺 享 弘
副 島 崇

1. 円板状半月板損傷に対する切除術の治療成績

長崎大学整形外科 米 倉 暁 彦 先生

2. 小児・若年者の外側円板状半月損傷に対する手術治療成績

久留米大学医療センター整形外科 田 淵 幸 祐 先生

3. 円板状半月の臨床症状の発現時期に対する影響因子と臨床成績の検討

福岡大学 医学部 整形外科 佐 伯 和 彦 先生

4. 膝外側円板状半月：形態および断裂形態と術式の関連性、年代別発症機転の特徴

宮崎大学 医学部 整形外科 山口 奈美 先生

サテライトミーティング

第58回九州肩関節研究会

11月14日（土） 18：00～ （第2会場）

特別講演 19：00～ 「広範囲肩腱板断裂の治療戦略」

いわき市立総合磐城共立病院 診療局長 相澤 利武 先生

参加費 1,000円

（日整会教育研修単位N-9, 13）

第43回西日本骨軟部腫瘍懇話会

11月14日（土） 18：00～ （第4会場）

病理組織診断担当：宮崎大学医学部病理学講座腫瘍・再生病態学分野

田中 弘之 先生

参加費 1,000円

演題発表における個人情報取扱いについて

首記の件につきまして編集委員会にて検討して参りましたが、プライバシーの権利に対する意識の向上や個人情報の保護に関する社会的な動きを考慮し、西日本整形・災害外科学会としては、外科関連学会協議会（日本外科学会ほか1学会）において、平成16年4月に策定された「症例報告を含む医学論文及び学会研究発表における患者プライバシー保護に関する指針」で充分であるという結論に達しましたので、この指針を遵守することにいたしました。会員各位におかれましては、「症例報告を含む医学論文及び学会研究発表における患者プライバシー保護」に関しましては、本指針（<http://www.jssoc.or.jp/other/info/privacy.html>参照）を遵守されるようお願いいたします。

その他、原稿作成に必要な要項につきましては、投稿規定をご参照願います。

平成22年6月5日
西日本整形・災害外科学会

投 稿 規 定

1. 整形外科と災害外科（以下、本学会誌）には原則として西日本整形・災害外科学会（以下、本学会）の発表論文を掲載する。
2. 投稿者は本学会会員であることを要し、論文の採否は編集委員会で決定する。
3. 投稿論文は未発表のものであることを要し、掲載後は本学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁ずる。
4. 雑誌に掲載された論文の著作権は、西日本整形・災害外科学会に帰属する。
5. 投稿に際しては「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針※（外科関連学会協議会：平成16年4月6日）」を遵守すること。
※<http://www.jssoc.or.jp/other/info/privacy.html>
6. 原稿はワープロソフトを用い、B5判またはA4判用紙に横書きとする。
7. 論文は和文もしくは欧文（英、独、仏に限る）とし、簡潔であることを要する。
8. 欧文論文はワープロソフトを用い、B5判またはA4判用紙に十分な余白をとり、ダブルスペースで記載する。表題は、名詞、動詞、形容詞、副詞（など）の頭文字は大文字とし、冠詞、接続詞などはすべて小文字とする。
例 The Role of Blood Supply to Soft Tissue in the Healing of Diaphyseal Fractures. An Experimental Study
Kazuo Tanaka, Eiichi Sato and Hiroshi Ikeda
Department of Orthopaedic Surgery,
Kyushu University, Fukuoka, Japan
9. 論文は、常用漢字、新かな遣い、である調とし、医学用語は「医学用語辞典」および「整形外科学用語集」に従う。外来語は片かなを用い、外国人名は原語とする。文中の数字は算用数字（1, 2, 3, …）を使用する。
10. 数量の単位はcm, mm, g, mg, kg, ml, dl, cm², cm³等を使用する。
11. 原稿の第1頁には表題、著者名、所属、Key words（3-5個を選び英語と日本語を併記する）、400字以内の和文抄録を記し、別冊所要部数を赤字で付記する。
12. 図および表を明確に分け、図には説明文をつける。
13. 文献は重要なもののみ（30以内）にとどめ、次の記載法に従う。
 - a) 文献の配列は筆頭著者名のアルファベット順とし、本文中に見出し番号を入れる。
例 Hubbardら¹⁾を始めいくつかの報告²⁾がある。
 - b) 雑誌は著者名：表題。雑誌名、巻：初頁—終頁、発行年（西暦）、雑誌名の省略は、和文はその雑誌に与えられた正式のものを用い、欧文雑誌にあつては原則としてIndex Medicusの略称に従う。著者が3名までの場合は全員の名を記載し、4名以上の場合は主著者ら（first author, et al.）とする。
例 Cook, S. D.: Optimum pore size for bone cement fixation. Clin. Orthop., 11:223-302, 1988.
 - c) 単行書は著者名：表題。書名（版）、ページ。編集者、発行地、発行者（社）、発行年。
例 Bayne, L. G.: Thumb duplication. In Unsatisfactory Results in Hand Surgery, pp.101-108. Edited by R. M. Mcfarlane, New York, Churchill Livingstone, 1987.
 - d) 欧文論文の文献に記述する邦文論文は表題を欧語訳し、雑誌名はローマ字で書いた上で括弧（ ）にして訳名を入れ、末尾に（Japanese）を付す。
14. 本学会誌に投稿される論文における臨床研究は、ヘルシンキ宣言を遵守したものであること。本学会誌では投稿に際して著者の所属する特定の施設から同意を得ているものと見なす。動物実験を扱う論文では、動物の扱いが、その施設のガイドラインに沿ったものであること。
15. 編集委員会で冗長と認められた論文または修正を要する論文は、書き直しを求めることがある。
16. 用語、表現などは、編集者の責任でこの投稿規定に従い修正することがある。
17. 初校校正は著者が行う。校正はできるだけ早く済ませ、書留速達で返送すること。
18. 掲載料：刷り上がり2ページまでは無料とする。それを超えたページについてはすべて実費負担とする。図および表は1個を原稿用紙1枚と考え、3枚を超えた場合別に実費を徴収する。別冊は30部までは無料、これを超えた分は実費を徴収する。印刷1頁は原稿用紙4枚分に相当する。なお、特急掲載は5割増しとする。
19. 図および表が不備の場合は、トレース料、写植料等の清書費用を別に請求することがある。
20. 本学会以外の発表も、編集委員の推薦および承認がある場合には掲載することができる。
21. 論文（図、表を含む）はすべて本原稿の他にコピー1部を添え合計2部を提出すること。また、写真以外の図、表を含む論文ファイルの入ったフロッピーディスクもしくはCDを提出すること。原稿、フロッピーディスク、CDは返却しない。エックス線写真、顕微鏡写真は、コピーにも紙焼きしたものを添付する。
22. 本学会発表論文は、学会終了日より30日以内に提出する。

付則 本規定は平成24年6月3日に一部変更した。

原稿送り先：（書留にて送付のこと）
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
九州大学整形外科学教室内
西日本整形・災害外科学会事務局
TEL 092 (642) 5493
FAX 092 (642) 5507